

結成50周年記念研究大会、リーダー研修会

一般社団法人 奈良県手をつなぐ育成会

〒634-0061 奈良県橿原市大久保町 320-11 奈良県社会福祉総合センター内

助成事業の概要

「共生社会の実現」に向けて、「今を知る」～将来に向けて力強い育成会づくりを～をテーマとして、平成25年11月14日（木）15日（金）に奈良県社会福祉総合センター6F 大ホールで開催

講演1 「障害者権利条約と日本の障害者施策の展開」

講師 北野 誠一氏 NPOおおさか地域生活支援ネットワーク理事長
(障害者権利条約の現状と課題)

講演2 「共生社会に向けての地域作り」

講師 上野谷 加代子氏 同志社大学社会学部社会福祉学科教授
(地域福祉は、市民が作る。)

講演3 座談会 「子供育ては、親育て」 ～教育現場からのメッセージ～

講師 岡本 とも子氏 社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 児童発達支援センター仔鹿園園長
辻本 紀代子氏 橿原市心身障がい児訓練施設かしの木園園長
李 初子氏 社会福祉法人 奈良県社会福祉事業団 わかくさ愛育園総括主任
(社会の変化と家庭環境の変化と家族へのサポート)

講演4 「知的・発達障害児の自己決定力を育て

る」 (意思決定支援)

講師 石橋 由紀子氏 兵庫教育大学特別支援教育学専攻 准教授
(自己決定力をそだてる)

事業の成果

近畿各地より2日間で延べ人数が800名以上の参加がありました。

障害者虐待防止法、障害者総合支援法、障害者差別解消法等が成立し国内法が整備されてきました。そして、地域社会で生活する平等な権利・障害者への合理的配慮・インクルーシブ教育と方向性が示されています。

しかし、公助・共助にも限りがあり「自助」へのしわ寄せはめぐえません。

今後、障がい者が多様な社会参加をして地域で生活するには、本人のエンパワーメント、親同士の互助活動の存在の意義が高く評価されてくると思います。

また、地域福祉は「誰が、誰と、どこで、どのように、作っていくのか」を大切に、助け上手、助けられ上手の人づくり、地域づくりといえます。

育成会が社会福祉関係者とともに力を発揮していくためには、福祉を支える住民になる仲間を創る活動に取り組む必要があります。

2日目の療育現場からのメッセージでは、核家族化、母子家庭などの家庭環境変化、子育ての中心となる母親へのサポートと兄弟姉妹へのサポートのお話を伺い、幼児期の療育の大切さがよくわかりました。

インクルージブ教育と障害のある子供の自己決定について

自己決定とは「自らの意志や判断に基づいて、選択や決定すること」でうまくいかないことも多いですが、「決める」→「実行する」→「振り返る」をくりかえし行い育てていきます。

決めることそして実行することを繰り返し経験すること、幼少期から将来見据えた（生活のルール、意思決定支援など）の取り組みが必要です。

また、重度の障がい児・者の意思決定支援をどの様に取り組むか（親の代理決定をふくめ）と、決定後の総合的な支援が必要です。

研修を通して、今後も知的に障害のある人たちが「地域社会であたりまえの生活を送る」ための福祉の充実と、支援の輪を広げる運動の推進に手をつなぐ育成会が率先して取り組んでいく出発点になりました。

子育て支援部会の交流会などをとおして、幼少期から将来を見据えた生活のルールや意思決定支援の有り方を共に考える。

また、さまざまな「自己選択・自己決定」をサポートする仕組みと決定後の総合支援の有り方を考える。

母親はじめ家族の「障害需要」と「発達支援のための知識技能の取得」と家族の「心のサポート」の仕組みを考える。

成果の広報・公表

1 広報紙 奈良県手をつなぐ親たち 平成26年1月1日発行に記事を掲載
県行政・市町村福祉課・他関係機関・会員に送付しました。

2 奈良県手をつなぐ親たち 50周年記念誌に掲載
県行政・市町村長 福祉課に持参・他関係機関・会員に送付しました。

今後の展開

障がいのある人が地域で生活し社会参加するには、本人の活動・親の互助活動そして福祉を支える住民になる仲間を創り、近隣の人々に支えていただける地域づくりをめざして活動する。

地域に根ざしたコミュニティをつくる。